

保育実習の効果

— 表現活動の体験と課題 —

武石 仁美

(平成13年10月4日受理)

The Effects of Students Experience of Nursery Care

Practices —Especially of Expression Activities— and the Problems that these Practices Raise

Hitomi TAKEISHI

(Received on October 4, 2001)

キーワード：保育実習，表現活動，体験

Key words：Practice in Nursery Care, Expressive Act, Experience

はじめに

保育者をめざす学生にとって、教育実習、保育実習の重要性は言うまでもない。保育職を目指す学生の進路の方向性、自己の敵性の獲得に大きな影響を及ぼすことも指摘されている。保育者養成校における課題も、数多く論じられている。なかでも、長年問われ続けている“資質の高い保育者の育成”について、社会の様々な状況や、保育をとりまく環境を考えても、養成校としては、重点をおいて取り組まなくてはならない問題である。

教育、保育実習は、現場に出て即実践力の向上、保育技術・保育知識の習得だけにとどまらない。実習生自身の保育者としての資質、能力の向上、創作意欲の向上、子どもの理解と対応等、理論と実践の充実を計るためにも、重要な位置をしめていることは言うまでもない。すなわち、実習という直接体験と、想像・創造体験でもある表現活動体験を通して、保育についての課題意識の明確化と、学習意欲を引き出すことが、学生にとって重要なことと考えられる。

ここでは、保育実習先で、表現活動(パネルシアター、紙芝居、ペープサート)の実践体験を通して、学生の保育者としての育ちにどのように影響しているかを検討し、学生が、保育者を志すものとして、自分自身を見つめ直

し、子どもを観る目を養うための良い機会と捉え、今後の学生指導の一助としたい。

方法

1. 調査対象

東京家政大学短期大学部

保育科 2年生 203名

(実習対象)

東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、茨城県、栃木県、群馬県、各区市町村の公立保育園(私立保育園も5園含む)

2. 調査時期

2000年7月～9月

◎ 製作の条件

・A) パネルシアター、B) 紙芝居、C) ペープサートの3点より、各自表現したい教材を自由に選択決定し、製作する。

・子どもたちに、何を伝えたいのか“ねらい”を設定させ、内容を検討し、脚本化する。

・対象年齢も考慮に入れるよう指示する。

・“ストーリー”は、オリジナル作品か、原作の一部変更か、いずれかの作品とした。

4. レポートの書式

①製作した教材の種類

②作品のタイトル

- ③ねらい
- ④対象年齢
- ⑤実践年月日, 実施場所
- ⑥実践対象児 (年齢, 人数)
- ⑦実践結果
- ⑧実践についての考察
- ⑨感想

以上の内容で, B5版レポート用紙, 3枚にまとめて提出させた。

5. 調査内容

実践結果をまとめたレポートの, 考察及び感想の記述の内容を分析し, 次のような観点から分類した。

- a 決意意欲: 今後の自分の生き方や, 保育者としての姿勢, 希望的, 発展的内容。
- b 発見: 今まで気づけなかったことや, 新しい出来事や物事に感じたり, 新たに感じたりしている内容。
- c 理解: 深く感じたり, 学んだり, 自分の身についたことを主とした内容。
- d 反省: 自分の失敗や力不足を反省している内容。
- e 感想: 客観的な行動の記録を主にしたものから, 主観的, 感情的色彩の濃いものなど。

結果と考察

表1は, 実習生の製作した教材別作品の件数を示したものである。ここでは, パネルシアター, 150名(73.9%)と圧倒的にパネルに集中している。次に多かった教材は紙芝居, 44名(21.7%)であり, ペープサートにいたっては, 9名(4.4%)と最も少ない人数である。“なぜ, その教材を選んだか”という設問は設けなかったため, 理由はつかめないが, レポートの記録によるメモをあげると, 例えば,

- パネルシアター: 一番簡単にできるから。
 - 紙芝居: 絵を描いたり, 脚本を書いたりやや難しい。
 - ペープサート: 1人で演じることが難しく平面的で人形劇のような立体性にかけ, やや地味である。
- など, 学生数人からの感想であり, あくまでも推測の域を脱しえない。

表1 教材別資料とその実践者の割合 (%)

パネルシアター	紙芝居	ペープサート	合計
150 (73.9)	44 (21.7)	9 (4.4)	203

表2 教材別資料とレポートの内容分析 (%)

項目	作品			計
	A	B	C	
a 決意	88 (58.7)	33 (75.0)	5 (55.6)	126 (62.1)
b 発見	8 (5.3)	5 (11.4)	1 (11.1)	14 (6.9)
c 理解	30 (20.0)	7 (15.9)	2 (22.2)	39 (19.2)
d 反省	89 (59.3)	44 (100)	9 (100)	142 (70.0)
e 感想	150 (100)	44 (100)	9 (100)	203 (100)

表2は, Aパネルシアター, B紙芝居, Cペープサートの作品実践レポートの考察及び感想の内容を項目別に分類し, その人数と割合を示したものである。

表2で, 最も多かった項目は, A, B, Cの3作品共, e感想で, Aパネルシアター150名(100%), B紙芝居44名(100%), Cペープサート9名(100%)と, 全員の学生の記述があった。

その内容を見ると, A, B, C共初めて人前で演じることの緊張, 不安を感じていたようである。

それぞれについて, 具体的に挙げれば,

A. パネルシアター

- ◎ 「人前で演じるのは初めてだったので緊張し, 皆が見てくれるか不安でした」
- ◎ 「緊張しすぎて頭の中が真っ白になり, 台本を忘れてしまったが, 真剣に見ていてくれたりと, あわてている自分を支えてくれたのが子どもたちで, 最後まで演じることができました」
- ◎ 「緊張したが子どもの反応力が予想以上に大きかったので, それに勇気づけられて, 夢中で演じることができた」

- ◎ 「緊張したが, まわりの子どもから励まされたり, なだめられたりしながら, 次へ進めていくことができた」。

B. 紙芝居

- ◎ 「緊張してしまい思うように声が出ず, 全体的にメリハリのない声になってしまいました」
- ◎ 「オリジナル作品なので演じるのが不安だったし, 自作のものは少しはずかしかったが, 子どもの素直な反応を見て参考になり, 安心した」
- ◎ 「子どもの前ではじめて紙芝居を演じたので緊張した」

- ◎ 「絵を描くのが苦手で下手なので, 紙芝居を作る

のあたり、すごく気が重くなった、何度も失敗しながら作った」

◎「紙芝居を子どもの前で演じ、最初は恥ずかしかったが、読み始めると緊張もとけて演じることができた」

C. ペープサート

◎「緊張したが、思っていた以上に、子どもの反応がよく、楽しく演じることができました」

◎「緊張してしまい、言葉がつまってしまいました。子どもは楽しかったと言ってくれたので嬉しかった」

◎「最初は緊張しましたが自作のものだったので子どもの“すごいね”と言う言葉に安心することができた」

以上のように、初めて演じてみて、子ども達の声を直接感じ取るにより、緊張感もとれ、あがりや緊張を克服していく様子が見受けられ、ほとんどの学生が演じて良かったと、効果的实践であったことがうかがえる。

次に、子どもとの関わりのついて記述している内容も多い。

A. パネルシアター

◎「パネルシアターを演じてから、子ども達が沢山話しかけてくれて、楽しく実習することができた」

◎「皆んな歓声をあげたり、笑ったりし、子どもと先生と、そして私とその場の雰囲気が一つになった気がする」

B. 紙芝居

◎「演じ終わった後に“もう一回”と言われたり、作品に触りに来てくれたり“おもしろかった”“また見たい”など感想を聞いた時は、本当にうれしかったです」

◎「“もう一度読んで”と言われた時は、とても嬉しくて、自分の作った物語が子ども達の中に少しでも残っているのだと思いました」

C. ペープサート

◎「子どもが自分でペープサートを手に取って、クルクル回し動きをじっと見たりと、一緒になって楽しそうに参加してきた」

◎「演じてみて、難しかったけれど、子ども達が楽しかったと言ってくれたので、自分も楽しく演じることができた」と。

共通の話題で喜び、楽しみ、興味を感じたりと、共感

することで、子ども達との距離間も縮まり、学生に演じることの楽しさの気づきが見られた。また、子ども達からの言葉がけにより勇気づけられ、自信を持ったことができた学生もいる。

具体的には、

◎「緊張していたら、それを子ども達を感じとって“先生頑張ってる”とはげましてくれた」

◎「失敗もあったけれど、先生も子ども達と暖かく見ていてくれたのでよかった」

◎「演じた次の日、子どもに“きのうおもしろかったよ”と言われ感動しました」

◎「女の子が“先生どれが、かわいかった？”“私は全部かわいかったよ”と嬉しそうに作品をほめてくれたので、思わず涙が出そうになりました」

◎「演じ終わって、次の日男の子が“ありがとう”と言ったので“何があるありがとうなの”と聞くと“パネルシアターやってくれて”と言い“楽しかった”と笑顔で言ってくれたので、自分ではうまくできなかったのに、うれしくて涙が出そうになった」と。

以上の事例では子ども達の優しい素直な言葉に触れて、緊張していた学生の心も、しだいにやわらいでいく様子がうかがえ、ここでも演じることのうれしさを確認できたものと思われる。このような、子どもの優しさに触れ、いつか、子どもの側に立っての配慮もできるようになったと思われる。

具体的には、

◎「積極的に参加できる子、中心になってしまい、参加できない子に対して、うまく声を掛けてあげられなかった」

◎「静かに、ゆっくり聞きたかった子ども達に対しての配慮が出来ませんでした」

◎「ストーリーを理解して見るには、1歳児には、まだ早いようだが年齢に応じて、もっとわかりやすい言い方、語り方にしておけるべきだった」

◎「子どもの好きな絵本を題材にしたので、子どもが楽しめて良かった」

◎「画面の色づかいが薄く、後ろの方の子ども達に、見えにくかったので、色使いなど工夫して、皆が楽しめるようにしてあげたい」などの記述が印象的であった。

また、演じる前に、その作品がいかにされるかどうか、最も大切な導入部分にも、失敗しての気づきがある

る。具体的には、

- ◎ 「皆んな遊んでいる所だったが、こちらが一方的に始めてしまったため、子どもが混乱してしまった」
- ◎ 「導入部分を考えないで、突然始めてしまったので、こどもが騒がしくなってしまった」
- ◎ 「こども達は、歌を知らない様子だったので、いきなり演じるのではなく、絵人形を最初にみせてあげたりして、ストーリー展開を、わかりやすく演じてあげれば良かった」
- ◎ 「導入の時に、手遊びをしたり注目させたり、少しお話をしたりと工夫すればよかった」などがあげられる。

次に多かった記述は、A, B, Cともdの反省で、具体的には、A, パネルシアター

- ◎ 「子ども達をまとめることで何かを問いかけると、いろいろな返事が返ってきてしまい、どう対応したらよいのかわからなくなってしまった、そのため中途半端な状態で終わってしまった」
- ◎ 「演じている時、あきてしまった子や、前に出て来ってしまう子に対するの対応ができなかった」
- ◎ 「子どもの様子を見ることができず、ただ演じているだけになってしまった。自分でも楽しんで演じることができなかった」

B. 紙芝居

- ◎ 「1人の子どもの質問により、全員の子どもが僕も私もと前に来てしまい、大混乱になってしまった。お昼寝前で気持ちを落ち着かせるはずが、興奮してしまい、なかなか眠れなくなってしまった」
- ◎ 「子ども達が何か話しかけてきてくれても、話が混乱してしまうと思い、なかなか子どもに答えてあげられなかった」

C. ペープサート

- ◎ 「子どもの前で初めてペープサートを演じたので、演じることに気を取られすぎであまり子どもの反応を見ることができず、保育者が始めから終わりまで手助けをしてきていた」
- ◎ 「子どもの応答が多すぎたため、話の内容が途切れてしまい、そのため、おとなしく見ている子には分かりにくくなってしまった」。

以上のように、学生の思いもよらぬ行動や問いかけに対して、戸惑いをおぼえ、自分の力不足を感じとっているようである。また、演じ方についての反省点

も多く、

- A. パネルシアター
- ◎ 「練習不足で台詞が棒読みになってしまい、話が進むにつれて、集中力が途切れてしまった」
- ◎ 「台本をみながら演じたため子どもの様子がまったく分からず、言葉や歌も忘れてしまい、子どもが混乱してしまった」
- ◎ 「演じている途中、手順を間違えたり、台本を忘れてしまったり、パーツを落としてしまったりと、もっと準備をしっかりとしておくべきだった」。
- B. 紙芝居
- ◎ 「紙芝居の持ち方や、演じる位置を考えるべきだった」
- ◎ 「台詞が多すぎ、読みにくかった、もうすこし要約すべきだった」
- ◎ 「主人公の気持ちになって感情を表現するのは難しかった」
- ◎ 「台詞をもっと簡潔に読みやすくし、繰り返しなどして、工夫を凝らせばよかった」。
- C. ペープサート
- ◎ 「スムーズに人形を動かせなかった、練習不足だった」
- ◎ 「テーブルの下に、次に出すものを準備し、テーブルの上で演じる…動作の流れがうまくいかず、もっと練習が必要だと思いました」
- ◎ 「風で、製作した木が倒れてしまって、演じる場所の設定も考えるべきだった」と、実際に声に出したり、動作を入れたり、初めて演じてみる。失敗を重ねながら工夫したり、考え直したりすることで、より発展的な発想が生まれ、改善され、そこに進歩が観られた。

3番目に多かったa決意では、A88名(58.7%)、Bが33名(75.0%)、Cは5名(55.6%)であった。具体的には、

A. パネルシアター

- ◎ 「子ども達はパネルシアターがとても好きなので、沢山作品を作って、パネルを楽しめるようにきちんと準備をして、次の実習では自作の作品を取り入れたりしながら、生かしていきたい」
- ◎ 「手作りのものは、とても暖かいです、時間がある時に作品を作っておきたいです」
- ◎ 「保育に使えるものを作って、後へ役立ててゆき

たいと思う」

- ◎ 「準備は大変だったが、それ以上に収穫があるように思う。時間があればもっと作りたいと思った」
- ◎ 「自分で作ったものなので愛着というものがあり“こうしたものは全て自分の財産なのだから大切にしておいてね”と、先生に言われて、改めてその大切さを感じました。経験を重ねながら自分の力として大切にしていきたい」

B. 紙芝居

- ◎ 「一つでも手作りの物を持っていれば、これから先就職しても心強いし、なによりも宝物となったので、頑張って作って良かった。もっと読む練習をして、子ども達に手作りの紙芝居を見てもらいたい」
- ◎ 「保育者になるにあたって、演じるものがないと困るので、時間を見つけてコツコツと作っていききたいです」
- ◎ 「いつか私にも上手に読み聞かせができるという希望を持ち、失敗を恐れずに次の実習の時に挑戦したいと思います」
- ◎ 「いろいろな小物など製作していきたい、そのきっかけとなった紙芝居を大事にしていきたいです」
- ◎ 「今回感じたこと、失敗したことを次回の課題として頑張りたいと思います。また、いろいろな作品を子ども達に紹介していきたいと思います」

C. ペープサート

- ◎ 「演じ終わって、もっともっと数をこなしてみたい、そして様々な教材を作りたい、そして演じて見たいと思った」
- ◎ 「あまり余裕がなかったので、次回からは、準備をしっかりとやって、やはり子どもの前に立つことを沢山経験していきたいと思いました」
- ◎ 「もう少し改良して、練習して、もう一度チャレンジしたい」
- ◎ 「もっとレポートリーを増やして、子ども達に楽しんでもらいたいです」
- ◎ 「今回の経験を生かして、次の機会につないでいきたいと思います」。

このように、実践体験を前向きな気持ちでとらえている学生も多かった。自作の作品を不安な気持ちの中で演じたが、子ども達からの反響の大きさや、手作りの暖かさを体で感じとり、失敗をバネにしながら自信をつけていったと思われる。そして、次の実習に向けて、また、

保育者になるであろう、自分の姿を想定しながら、製作意欲や、新たな決意を高めていったと思われる。

次に、C理解について述べると、A（パネルシアター）31名（20.0%）、B（紙芝居）7名（15.9%）、C（ペープサート）2名（22.2%）と人数は減るが演じる上で大切な基本的姿勢をとらえた記述がみられた。

A. パネルシアター、

- ◎ 「自分が演じる作品の内容をしっかりと把握しておく事と、それを子供達に見てもらいたいという気持ちを表現することにより、自分が楽しみ、子ども達も楽しめること」
- ◎ 「落ちついて、ゆったりした気持ちで演じれば、子どもの様子もいろいろ見え、それをきっかけに話を広げることができます。脚本を気にしすぎないで演じることが大切だとわかりました」
- ◎ 「パネルシアターを演じるということは、自分の立つ位置、紙人形の置き場所・動かす位置・方法・読み方・声分け・そして子どもの反応などが全て含まれていることがわかり、1つ1つの大切さを知った」
- ◎ 「子ども達に語りかけるように、そして期待を持たせてあげ、一緒に楽しむことの大切さを知った」
- ◎ 「子ども達の表情や反応を見ながら間を取っていくことが大切だと痛感した、子どもの反応に合わせて柔軟に進めることで子ども達の集中する瞬間を驚くほど強く感じることができた」。

B. 紙芝居

- ◎ 「子どもが好きな絵本を題材にしたことが、子どもが楽しんで見ることに繋がった」
- ◎ 「子ども達に目を向けながら演じることは、子どもの反応によって台詞の読み方を変えたり、間合いが取れたりするので、大切なことが分かった」
- ◎ 「紙芝居を演じる時、自分で作った作品なので、話の内容を熟知していることは、子どもの反応によってもすぐに変えることができ大切だと感じた」
- ◎ 「子ども達の期待を高めるような言葉がけをしてあげることの大切さが分かった」
- ◎ 「子ども達の好きなジャンルを把握した上で、その年齢に合ったテーマ、場面数、文の長さを考える事が大切だとわかった」
- ◎ 「子どもの様子を見ながら、声の大きさや、間の取り方など注意して演じれば、子どもが集中して見

る事ができることを知った」。

C ペープサート

- ◎ 「子どもが集中して見ている時に、台詞を忘れてたり、失敗すると集中力が切れてしまうので、お話の流れを中断させないように演じることが大切だとも思った」
- ◎ 「子どもの反応を受け止め、問いかけたりしながら話を進めること、子どもの行動、状況に応じた配慮をするということが、演じるうえで大切だと思った」。

以上のように、初めて、子ども達の前で演じることは、大変難しいことです。自分が楽しく、慌てず、落ちついて、子どもの反応をみながら演じるにより、子ども達が話の中に引き込まれて、登場人物になりきる。演じ手と、子ども達が一体になって、喜びや楽しみを共感できる空間でもあり、このことがいかに大切あるか、理解できたものと思われる。子ども達の想像力や表現力が、演じ手である実習生の取り組みしだいで、うまく引き出すことが可能であることも、身を持って体験できたことと思われる。

次にb発見では、Aパネルシアター、8名(5.3%)、B紙芝居、5名(11.4%)、Cペープサート、1名(11.1%)。と少数の人数に留まっており、実習生は演じることで精一杯であったことが伺える。その内容は、

A. パネルシアター

- ◎ 「子ども達の反応や声に、目や耳を向けなければいけないということに気付き、周囲に気を配りながら演じた。すると、いろいろなお話し(演じているパネルシアターのこと)を子ども達がしていることに気付きました。それまで聞こえなかった声が沢山耳に入って来ました」
- ◎ 「一歳の男の子が、食べ過ぎのおおむしを見て“めっ、めっ、”と叱っていたことです。食べる量が決まっている子どもたちですから、食べ過ぎおおむしを叱ったのでしょ。食べ過ぎはいけないことを」

ある程度、心にゆとり持って演じることができると、細部にまで目が届くようになる。小さな声を拾い、子ども達の思いを知る。その思いがけない反応に驚きながらも、子どもが、さまざまな環境や、教材等に刺激を受けながら生長していく姿に感動したのものと思われる。

B. 紙芝居

- ◎ 「年少組には、内容が少し難しかったが、お話しを十分に理解していなくても、絵を見て“あっ、ねこ”と言ったり、指さしてことばを発する子などいて、絵を見て楽しんでいることが分かった」
- ◎ 「1歳～5歳児全ての年齢の子どもに演じてみたので、年齢ごとの反応がわかった。また年齢に合わせて演じることの楽しさを知った。5歳児向けのを1歳児に演じて、子どもは、面白くないはずで。そこで絵などに興味を示してくれるなら、少し工夫して、話をアレンジしたりすることむ、1つの手段だと感じた」
- ◎ 「年少クラスの場合、子ども達も参加できる方が盛り上がりがあった、なるべく繰り返しが多く、文章、話の展開が少ない方が、子ども達も楽しめることが分かった」

C. ペープサート、

- ◎ 「4歳児は、視覚的なことよりも、私が予想した以上に、次々と反応し参加してくれてくるといった感じでしたが、1、2歳児は、目の前の風船が何に変化するかと、視覚的に楽しんでいたというように、同じ教材を使っても年齢によって、様々な受け取り方が、有ると言うことを学びました」と。

年齢別や、混合で演じた結果、年齢によって、受け止め方や、反応が違うため、年齢に合わせ工夫し演じたものと思われる。そして、発達年齢による違いも理解できたようである。

以上、実習生の実践体験記録から、どのように実践を捉えてきたか、その取り組み方を検討してみた。実習生が演じた作品は、表現の授業の中で製作した、自作の作品である。“ねらい”通りに上手く演じられた学生、思いもよらぬ反応に、とまどい、失敗に終わった学生と、様々ではあったが、1人としてあきらめた学生はいなかった。全作品を通して実習生の実践体験は、効果的な体験結果と言える。そして、自作の作品を子ども達の前で演じることが、学生自身の自信や意欲にもつながり、今後の様々な体験に反映することを、期待していきたい。

まとめ

以上を通して、3作品の表現活動から、それぞれが、何を感じ取っていたかということ进行分析した。

結果として、パネルシアター、については、決意、意

欲を持った実習生が、88名(58.7%)と、約半数以上、反省する実習生も、89名(59.3%)と、半分いた。

そして、紙芝居については、意欲が湧いた実習生が全体の数より20名(45.5%)と、下まわり、かつ反省、感想が44名(100%)と、全員の実習生にあった。

すなわち、かなりの実習生が、演じていく上での展開の難しさを、実感したものと考えられる。

ペープサートについては、意欲につながったものとしては、5名(55.5%)と半数であった。反省と感想は9名(100%)と、全員の実習生が記述しており、やはり演じる事が難しいと感じている学生が多く見られた。

また、発見1名(11.1%)、理解2名(22.2%)については、極めて少ない記述であった。共通していえることは、演じる事に捉われ過ぎ、子どもの反応や様子を観ることが出来なかった点である。

また、表1の結果としては、実習生が初めての表現活動からの実践体験を通して、1番子どもと関わりが取れ、あまり抵抗がなくスムーズに入っていけるパネルシアターが、演じ易かったと思われる。また、紙芝居や、ペープサートは、表現の仕方や、操作の手順が難しく、子どもと、上手く関わっていくことが難しいものであったことが、表2から読み取ることが出来た。

表現活動では、安易に身につく物もあり、子ども達にも喜ばれる物もある。保育者になろうとする学生にとって、自己研鑽していくためには、あえて、紙芝居やペープサートの様に、難度の高い作品の演じ方にもチャレンジしてみようと思う、意欲的な姿勢が望まれる。

今後の課題

以上の実習体験の検討から、実習生が実習に際して、前向きに取り組んでいる姿勢が明らかになった。保育実習生が、表現活動の実践体験を行う上で、次のような事が、課題として捉えることができた。子どもの反応による対応や配慮の仕方、異年齢から来る、発達の違いの把握、演じ方の技術の習得と工夫、などが上げられる。そして、これらをふまえた上で、子どもと接する機会が少なく、子どもを理解する場も少ない現状において、体験の場の拡大、も重要な視点として捉えることができる。このような事柄を充実させ、学生自身、前向きに立ち向かう力が発揮できるよう指導していくことが、養成校に課せられた重要な問題なのである。今後の調査では、引き続き実践活動の検討を行い、保育者や保育園の側面を

捉えることも、今後の課題としたい。

謝 辞

本稿をまとめるにあたり、諸助言いただきました東京家政大学川瀬八州夫先生、平山祐一郎先生に、心から感謝いたします。

文 献

- 1) 高杉自子・堀田幸子他 1981 視聴覚教材を生かした活動 チャイルド本社 p 53～70
- 2) 多田信作 手づくりの絵本をつくろう 1980 黎明書房 p 185
- 3) 黒川建一・高杉自子 1990 保育講座保育内容表現 ミネルバ書房 p 12～44
- 4) 皆本二三江 1991 0歳からの表現.造形 文化書房 博文社 p 182～205
- 5) 武石仁美・福田啓子・橋口英俊 1994 幼稚園教育と小学校教育の関連について 日本保育学会第44回大会研究発表論文集 p 290～291
- 6) 井戸裕子 2001 保育内容「表現」における教材研究 日本保育学会第54回大会 p 400～401

Summary

This paper is an investigation based on reports written by students of their practical experience in presentation activity. In order to try and gain a picture of how the students interpreted such practical experience, for the purpose of my analysis I drew up five categories. The results of my analysis clarify the following matters :1) the ways in which the students made the performances appeal to and catch the interest of young children ; 2) students' grasp of the differences in the development of children in different age groups ; 3) the ways in which students acquired and improved performance skills ; and 4) how students gained the most out of the experience of performing. These in turn made clear which particular issues the students had to deal with in the future. Overall, most of the students reported that even though they had been nervous and made mistakes, they had learned a great deal and also enjoyed seeing how the children reacted to their performances. It was an experience that inspired them to do the same kind of thing again, they said, and it also made them want to compose more plays. Clearly, students interpreted the experience as positive and motivating, one that provided them with worthwhile practical education.